

各位

株式会社JMC

(証券コード：5704)

2021年12月期 第3四半期決算

売上高は前年同期比8.0%減の1,612百万円、営業損失は52百万円

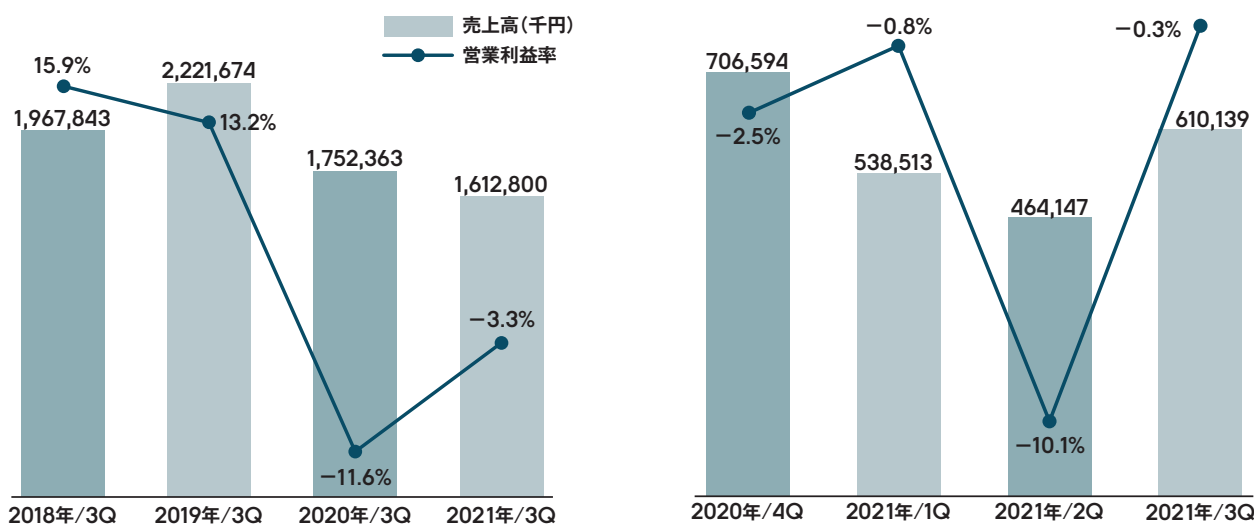
～ 業績は緩やかに回復傾向も完全な回復までにはもう少し時間を要する ～

2021年12月期第3四半期の業績は、売上高1,612百万円(前年同期比8.0%減)、営業損失52百万円(同営業損失203百万円)、四半期純損失4百万円(同純損失143百万円)、1株当たり四半期純損失0.79円(同1株当たり四半期純損失27.14円)となりました。

鑄造事業において主要顧客の自動車産業分野は、凍結されていたプロジェクトの再始動などの動きがあるものの、他事業において回復に至らないサービス分野もあり、業績の底上げ効果は限定的なものとなりました。

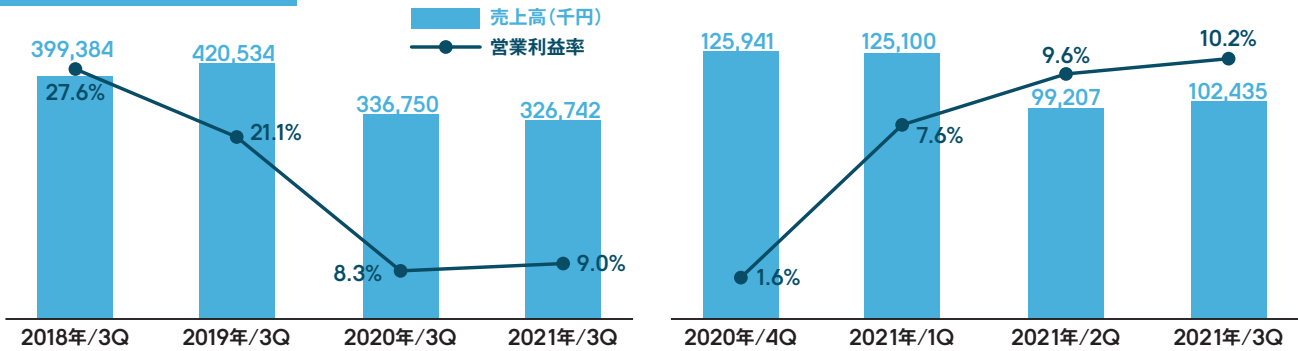
当社では伊豆木産業用地(長野県飯田市)に建設した鑄造品の熱処理工程を担うコンセプトセンター「第7期棟」の稼働による内製工程のさらなる強化、3Dプリンター出力事業での新たなサービスブランドの立ち上げ、協業体制の確立など、従来培ってきたスキル・ノウハウを活かした新たな製品・サービス提供を推進し、市場環境の回復を待つことなく、需要拡大による成長に向けた取り組みを強化してまいりました。

業績ハイライト



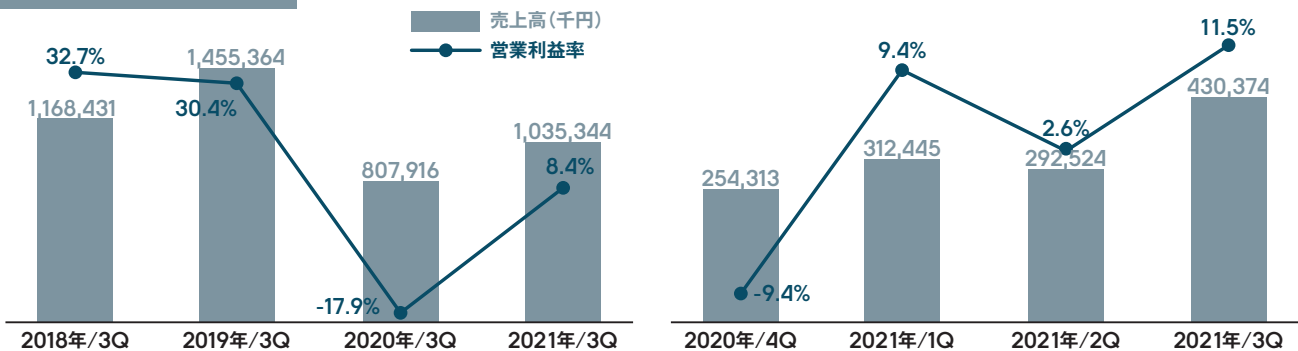
セグメント別業績

3Dプリンター出力事業



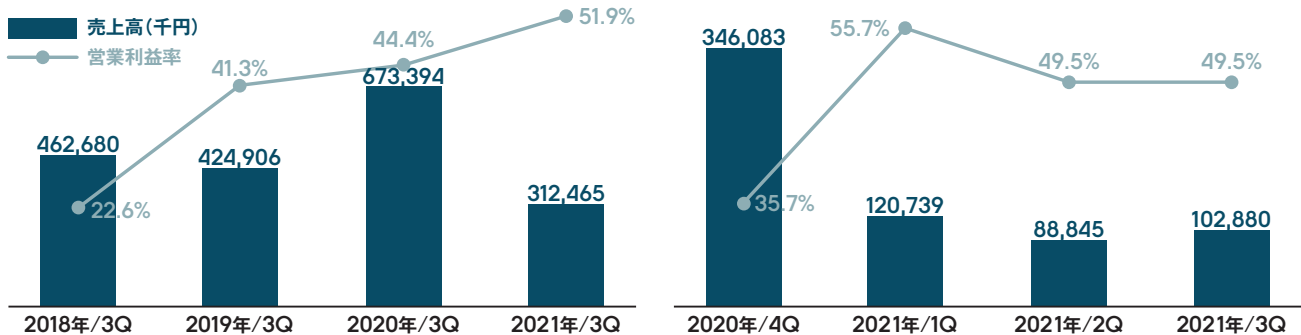
- 依然として試作プロジェクトの停滞や催事減少による需給バランス悪化の影響を甘受
- HEARTROID(ハートロイド) および医療モデル製作分野が業績をけん引

鋳造事業



- 顧客の試作プロジェクト再始動が徐々に進み、業績は回復傾向
- ファクトリーオートメーション分野の量産部品は大幅な需要増加
- 内製工程の強化に加え、外部コンサルタントを活用した量産体制確立を推進

CT事業



- 当期は第3四半期まで装置販売実績なし
- 特定顧客のプロジェクト案件は縮小したものの撮像サービス浸透により新規顧客数は増加
- 産業用CT認知度向上策により、映像メディア分野、教育文化施設等での撮像需要を喚起

今後の見通し

2021年12月期第3四半期の業績は、全般で緩やかな回復傾向の中、概ね当社の想定通りの推移ではありませんが、通期業績の達成には予断を許さない状況が継続しております。

一方で、高難度案件、量産案件、新市場での案件獲得に向けた施策は各事業で粛々と継続しており、年度をまたいで実績を残すことが期待できる案件も増加いたしております。お客様に寄り添ったサービス提案力・解決力の強化に加え、案件のボリュームに捉われない柔軟な生産体制の獲得、時期を見極めた適切な設備投資を通じて、事業の拡張を進めてまいります。

なお、決算関連資料などにつきましては、当社ホームページよりご覧ください。

(<https://www.jmc-rp.co.jp/>)

問い合わせ先

株式会社JMC

経営企画室

TEL: 045-477-5751 E-MAIL: ir@jmc-rp.co.jp

(注意事項)

本資料は、当社の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、いかなる情報も、当社が発行する株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイスの目的で作成されたものではありません。

本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予測が記載されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましては、その責を負いかねますのでご了承ください。